

青田知史町政報告

令和4年1月1日発行 第10号

12月の議会の様子をお伝えします

12月16日、17日の2日間の日程で、町議会が開催されました。11人の議員による一般質問に始まり、条例の制定と改正、専決処分の承認、各会計補正予算、美瑛町名誉町民の推薦などの審議が行われました。

一般質問ではトップバッターとして登壇し、「長期的視点でより安定した財政運営を進めるために」、「ひとり親世帯等の生活の安定と向上のために」と2問について町長に質問をしました。これで町議会議員になってからちょうど25問です。

一般質問の場は、議員活動の中で「最もはなやかで意義のある発言の場」といわれています。議員として、町の政策に直接かかわることができる場でもあります。そして、質問の中で政策の提案や指摘が「実」となることもあります。大切な機会をいただいていますので、残された任期の中でもしっかりと取り組んでいきます！

さて、今回の議案の中で私がきちんと町民の皆様にお伝えしたいと思った、旭川市と周辺8町による連携について特集にしました。ぜひご一読ください。



左の画像は、10月13日に開かれた「上川管内中央部市長・町長会議」（当麻町役場）で旭川市の今津寛介市長が挨拶をしている様子です。

この会議で、旭川市が**連携中枢都市都市圏構想**について発議し、全会一致で了承されました。
（画像は今津市長のFacebookよりシェアしました）

第10号の内容

☆特集：連携中枢都市圏構想

①新しい連携事業

②し尿処理施設の広域的利活用

☆「地域映像を楽しむサロン」+1

☆「子供の貧困」

☆ごあいさつ

町政に活力を！

まちづくりに希望を！

青田ともふみ

検索



QRコードでアクセス

※この町政報告やホームページの内容は全て議員個人の見解、意見であり、美瑛町議会の見解、意見ではありません。

◆特集 連携中枢都市圏構想 ①新しい連携事業



ざっくりと言えば・・・。

- ・ 旭川市が中心となり圏域全体で活性化に取り組みます。
- ・ 美瑛町も来年度から旭川市と新しい形で連携します。
- ・ 経済や生活分野などで**新しい連携事業**も始まります。

このような内容の話です。これまでの定住自立圏形成協定は廃止されますが、この協定で締結していた事業のほとんどは引き継がれます。

旭川市と美瑛町で連携する事業は以下のとおりです。

1. 地域の強みを生かした産業振興
2. **広域観光のネットワーク化 ※**
3. 就業マッチング促進事業
4. ICTパークにおける人材の育成と地域経済の活性化
5. 地域公共交通確保維持改善事業
6. **旭川空港の利用拡大**
7. **鉄道の利用促進**
8. **北海道新幹線の旭川延伸の促進**
9. 二次救急医療の連携
10. 小児二次救急医療の連携
11. 子育て支援体制の充実
12. **子育て支援員の養成**
13. 無料法律相談事業
14. 成年後見制度の利用支援体制の充実
15. 手話奉仕員・手話通訳者の養成
16. **要約筆記者の養成**
17. 多様な生涯学習機会の拡充
18. 不登校児童生徒受入機関の共同利用
19. 図書館相互のネットワーク化
20. **科学館における科学の普及活動**
21. **キャンプ場のネットワーク化**
22. 防災体制の整備
23. **し尿処理施設の広域的利活用 ※**

24. 動物の愛護及び管理

25. 移住定住の促進

26. ふるさと納税による情報発信

27. 公共施設の相互利用の促進

28. 職員の相互人事交流

赤字は新たな連携事業です。※の2と23は既存事業への新規の参加です。

今後のスケジュールですが、1月に連携協約の調印式が行われます。その後、**旭川市民を対象に**連携中枢都市圏ビジョンのパブリックコメントを実施。3月に連携中枢ビジョン懇談会があり、ビジョンが策定され、4月1日に連携事業が開始となります。

制度的に、旭川市が中心となって手続きが進められますが、質疑をしたところ事業開始後の美瑛町からの要望については、町民提案事業も活用し担当課長会議などを通じて、旭川市に伝えることを想定しているようです。

疑心暗鬼になることなく本音で向き合い、旭川市と互惠（WIN-WIN）関係を構築し、圏域が活性化することを心から期待しています。

十勝に追いつけ追い越せ！

②し尿処理施設の広域的利活用

連携中枢都市圏構想は、自治体が単独ですべての行政サービスを提供するという「フルセット（全て自前）の行政」から脱却し、連携によるスケールメリットを活かして、より効率的な行財政運営ができるというメリットがあります。

美瑛町では、これまでし尿処理については藤野第一にある浄化センターで処理していましたが、老朽化や新設のコストなどを検討した結果、この連携を活かし来年度から旭川市の処理施設を活用していくこととなりました。救急医療の連携と同レベルの必要不可欠な連携事業だと思っています。

議会では、し尿収集を担当する委託企業への負担増について担当課に質疑を行いました。車両体制や人員の確保に向けた予算の積算も進めているとの回答があり、安全にも配慮しゆとりをもった体制につながることを期待しています。

「地域映像を楽しむサロン」

決算審査特別委員会で郷土学館美宙について質問した際に、担当職員さんから教えてもらったイベントに参加しました。古いビデオ映像や写真などをもとにして、10代から80代までの方が色々とお話をするサロン活動です。

ある町民の方が撮影したばんえい大会や農作業の様子など、貴重な美瑛のビデオ映像も見ることでとても有意義な時間となりました。私も実家にあった古い写真（下掲）を持参して、参加者の方にもご覧いただきましたが、今このような写真やビデオ映像、史料などを残すことが大切になっているそうです。

地域の映像を残すことで、その地域の歴史や生活文化を改めて知ることになります。そして地域にはまだまだ埋もれている貴重な映像があるはずで、郷土学館美宙が中心となって、地域映像を残していく必要性も実感したイベントでした。

竣工前の美瑛駅舎（昭和26年）



上棟式（昭和26年）



佐藤初吉町長初当選（昭和30年）



「15,000,000円 → 2,403,000,000円」

24億3百万円。美瑛町地域再生計画の企業版ふるさと納税受入寄付金額の目安（R2年～6年累計）です。前に議会で「10倍20倍の金額を！」と指摘したところ、11月に計画が変更され、1千5百万円だった金額の目安が、160倍になりました。議会では、担当課の意欲も賞賛しつつ、町長に対して「ふるしきは広げるよりもたたむ方が難しい」とあえて指摘をさせていただきました。トップセールスにより、多くの企業版ふるさと納税が美瑛町にもたらされることを心から期待しています。

気になることは「子供の貧困」

「コストではなく未来への投資」 この言葉は、岸田首相が企業経営者に対し、賃上げを通じた分配の意義を語った際の言葉です。

一般質問でも取り上げましたが、ひとり親世帯の保護者に対しての医療費補助の拡充についても、私は同じことが言えると考えています。

日本財団が2016年に行った「**子どもの貧困の社会的損失推計レポート**」では、子どもの貧困問題の放置による経済的影響を推計し、市場の縮小に起因する**経済的損失は、1学年当たり約2.9兆円**、税や社会保障費の支出増による**財政的負担も約1.1兆円増**となる可能性があると発表しています。

内需に依存している現在の日本の経済構造では、人口減少時代の状況下で、子どもの貧困を放置することは、所得と消費を低下させ、国内市場の縮小が一層加速すると指摘しています。

図表 45 社会的損失の推計結果の概要

財団では、子どもの貧困対策を慈善事業ではなく経済対策として捉え、**教育と所得格差解消に有効な投資対効果の高い施策**が求められるとしています。

子どもの貧困については、過去の議会でも度々一般質問で取り上げられていました。

しかし、生活保護などの申請があつて初めて分かるケースもあり、実態が見えにくいのが現状です。しかし、各種統計からも分かるように、来年度以降上川町や愛別町でも実施している通院費の補助を予算化(100万円程度)する、予算が無ければ企業版ふるさと納税を活用して事業化を検討するべきだと、私は考えています。

	所得	税・社会保障の純負担
現状シナリオ	22.6兆円	5.7兆円
改善シナリオ	25.5兆円	6.8兆円
差分	-2.9兆円	-1.1兆円

日本財団のレポートより引用

☆☆☆ ごあいさつ ☆☆☆

ワクチン接種も進み少しずつ日常が取り戻されている気がします。令和四年は天候に恵まれ、明るい話題と笑顔があふれる年になって欲しいと心から願っています。

さて、今月から文字の大きさを少し大きく、より読みやすく、分かりやすさを重視した紙面と表現を心がけました。かたい内容も多いかもしれませんがご一読ください。

来年は選挙の年。四年の任期も残すところ一年余りになりました。これからも、一般質問をはじめ、元気に一生懸命に議会活動と情報発信（共有）に努めます。

町民皆様の声が私の原動力であり、宝だと心から感謝しております。本年もご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。